

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	絵画	単位	3 単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	2 年	6 組
使用教科書	高校生の美術2(日本文教出版)				
使用副教材					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標:この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- ① 画材、素材に対する追究
(油彩、アクリル絵具、透明水彩等、各画材の組成と特性を知り、基本的な表現技法を学ぶ)
- ② 色彩、パルールの追究(デッサンで実習した表現を色彩に置き換えた制作)
- ③ 空間表現の追究
- ④ 絵画による自己表現の追究

学習方法:この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校

主に授業時間内で実習し、放課後用、課外時間も有効に使って学習する。
スケッチは美術コースの行事、「校外スケッチ実習」で2日間、野外に出かけて制作する。

(2)家庭

特になし

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	① スケッチ実習 風景のヴァルール、色彩による空気遠近法の理解。構造的観察力、立体感、空間把握。 ② 静物油彩 画材の特性と扱い方の理解。アクリルと油彩の併用技法を習得。 ③ 進級制作 静物油彩で習得した技術を自由制作で活用。	① スケッチ実習 画面に対しての構図の取り方、質感やイメージをイメージする表現力。短時間で制作する上での計画を立てて遂行する思考判断力。 ② 静物油彩 画面に対しての構図の取り方、質感や量感をイメージして描く表現力。乾きの遅い油絵の具で制作する上での計画を立てて画面を構築する思考判断力。 ③ 進級制作 画面に対しての構図の取り方、質感や量感をイメージして描く表現力。乾きの遅い油絵の具で制作する上での計画を立てて画面を構築する思考判断力。	① スケッチ実習 作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。 ② 静物油彩 作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。計画性。 ③ 進級制作 制作に必要な資料、画材の準備。作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。計画性。独創性。
評価方法	各課題を採点した点数。		
	各課題を採点した点数。特に表現力、構成力の習得を評価する。	各課題を採点した点数。特に表現力、構成力の習得を評価する。	各課題を採点した点数。特に表現力、構成力の習得を評価する。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画:この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	5	■「校外スケッチ実習」    道徳	■「校外スケッチ実習」(コース行事約10時間) F8画用紙パネル水張り、透明水彩 2日間で風景画を制作する パースペクティブの理解 透明水彩によるスケッチ技法の習得 道徳教育を行う 人や自然を題材とした絵画作品の制作を通して、自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を培う。人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深め、絵画表現の可能性を追求する態度を養う。主体的に幅広い絵画表現に取り組み、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を醸成する。	●	●	●
2	10	■「静物 油彩」  	■「静物 油彩」(31時間) セットモチーフ5セット(1セット8～9人囲んで描く)F15キャンバス・アクリルと油彩を併用 下地を生かした描写を行う ＊下地作りのポイント ・ 細かい形にとらわれすぎず大きく描く ・ 空間を意識する ・ 後に塗る固有色を生かすための色を置く ・ 積極的にマチエールを作ってみる ・ 下地で絵になっている感じをつかむ ・ 積極的に絵具で描写し量感を出す	●	●	●
3	1	■専攻別課題 進級制作 絵画自由制作 	■専攻別課題 進級制作「絵画自由制作」(58時間) F30～50キャンバスまたは同程度のパネル水張り 観察をもとにした描写的表現を基本とした自由制作 自由制作の制作過程を学ぶ スケッチ、資料の収集 エスキース 本描き 自己表現としての絵画作品の制作	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	日本画			単位	1 単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	2 年	6組		
使用教科書	高校生の美術2(日本文教出版)						
使用副教材	無し						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標:この科目を学習して何を身につけてほしいのか 膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習し、また日本画特有の空間表現を学ぶ。 ①膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など、伝統的な専門技法の学習 ②日本画の制作工程を一通り実習し、来年度へ向けた基礎実習とする ③綿密な観察による描写の実習 ④日本画特有の空間の追究
学習方法:この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1)学校 主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使って集中した制作を行う。 放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。 (2)家庭 無し

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめと)	日本画画材の伝統に基づいた基礎知識の理解。 岩絵具と膠の使用法の習得。 箔、もみ紙などの技法の習得。 対象を綿密に観察し、形、質、量感などを捉える力。 基本的なデッサン力。	画面全体を構成する総合的判断力。 絵画的表現力。 色彩の基本的理論を踏まえた上で、画面上で魅力的に表現する。 色彩感覚。 花を中心とした空間の表現力。	課題に取り組む意欲的な態度。 課題に対する感心と興味、探求の度合い。
評価方法	完成した作品によって評価する。 デッサン力と、日本画画材の知識を発展的に学び、高度な技術を習得できたかを見る。	完成した作品によって評価する。 モチーフから得たイメージを、正確な描写力と独自の感性によって、絵画として完成させる表現力を見る。	授業態度の他、日本画に対して関心を持ち、研究心を持って取り組んだかを見る。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	6 ～ 7	「日本画・花」    	「日本画・花」(40時間) F8雲肌麻紙に岩絵具 モチーフの花のデッサンし、着彩する。 その後は3つの描法から選択する。 専門的知識と経験が必要な日本画は、約1ヶ月の集中授業の形式で学習し、専門の講師が指導にあたる。2年次では、1年次に実習した顔彩による細密描写を踏まえ、全て岩絵具を使用して制作する。岩絵具の基本的な使い方と、各種描法の手順を学ぶ。描法は、墨描きで進める方法と、画面に地塗りを施して描く方法、揉み紙をする方法の3種類から選択して制作する。 モチーフは「花」。背景とモチーフの空間関係に留意して描く。 ① 墨描き 濃淡2～3段階の墨で、線に強弱をつけながら骨描きする。白か15番の細かい粒子の絵具で地塗りを施す。墨の線を生かしながら、岩絵具で描く。 ② 地塗り 黄土の白で地塗りをし、焦茶や黒の9～11番で下塗りをした後、15番前後の岩絵具を入念に塗り重ねる。地塗りの上からねん紙でトレースダウンをし、その上から岩絵具で彩色する。 ③ 揉み紙 麻紙を薄墨で、もし紙して、その後水張り。白か15番の細かい粒子の絵具で地塗りを施す。地塗りの上からねん紙でトレースダウンをし、その上から岩絵具で彩色する。 ・伝統的な専門技法の学習 ・日本画の制作工程を一通り実習 ・綿密な観察による描写の実習 ・日本画特有の空間表現の追究 日本画における道徳教育 日本画制作を通して日本文化を愛する心を養い、伝統を伝える事の大切さを学ぶ。歴史の中で受け継がれ、形成されてきた技法を体験し、日本の独特な美意識と精神性から生まれた造形思想を学ぶ。また岩絵具、膠、麻紙など自然素材を使って描くことによって、改めて自然環境に目を向ける気持ちを培う。	●	●	●

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	芸術科	科目	美術Ⅱ		単位	3 単位
対象コース	美術	コース	対象クラス	2 年	7 組	
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）					
使用副教材						

2 この科目の学習目標・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 2年生美術Ⅱでは、①デッサン、②西洋美術史、日本美術史、③彫塑という3つの領域で学習する。 ①デッサン：1年次に学習した物の観察の仕方、画材の使い方、基本的な形態の描写を踏まえて、より難易度の高いモチーフを描く。また空間表現や、物と物との関係に留意した制作を目指す。 ②美術史：日本美術史、西洋美術史を学習、基本的知識の学習と、鑑賞眼を養い、各時代、地域の美術を理解する。 ③彫塑：年間1回実習する。全方向からのデッサン力を養い、形の構造を理解する
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1)学校 デッサンと彫塑は主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。 日本美術史、西洋美術史は、授業内で小テストを実施する。 (2)家庭 日本美術史、西洋美術史は、自宅での予習、復習を確実にを行い、知識の定着を目指す。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	①デッサン、モチーフの比例、遠近法の理解。構造的観察力、立体感、空間把握。 ②美術史：西洋美術史、日本美術史のなかでの美術の発展の歴史を知る。主に定期考査で評価する。考査は授業内容から出題される確認テストで、その得点によって理解の度合いを計る。 ③彫塑：は主に完成作品で評価する。素材の理解度、技能を評価。立体作品のデッサン力で評価する。	①デッサン、画面に対しての構図。質感やイメージの表現力。 ②美術史：美術史を踏まえたうえでの絵画表現を考える姿勢を持つ。考査は授業内容から出題される確認テストで、その得点によって理解の度合いを計る。 ③ 彫塑：は主に完成作品で評価。創造性、表現力を評価。	①デッサン作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。 ②美術史：積極的に美術の伝統や歴史に興味を持ち、自ら調べ学習姿勢を身に着ける。授業に取り組む姿勢を平常点として加味する。 ③彫塑：完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
評価方法	考査の点数。 各課題を採点した点数。特に描写力や立体感、空間表現方法などの技術の習得を評価する。	考査の点数。 各課題を採点した点数。各課題を採点した点数。特に表現力、構成力の習得を評価する。	各課題を採点した点数。特に完成度を評価する。また、授業中の取り組み度も評価する。

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4 ～ 5	■「静物デッサン」  	■「静物デッサン 白黒モチーフ」 (1 課題17時間) B 3 画用紙に鉛筆 セットモチーフ 5 セット ◇白いモチーフと黒いモチーフを交互描く。 1 課題約 15 時間。 トーンの幅を広げる・空間を意識する。質感の表現に留意する。	●	●	●
1	5	■第 1 回考査静物デッサン 	■「第 1 回考査・静物デッサン」 (2 時間) 配布モチーフ 3 点～4 点 2. 3 年生共通のモチーフ A3 画用紙に鉛筆デッサン	●	●	●
1	6 ～ 7	■第 2 回考査静物デッサン 	■「第 2 回考査・静物デッサン」 (2 時間) 手の構成デッサン 2. 3 年生共通のモチーフ A3 画用紙に鉛筆デッサン	●	●	●
2	10	■「彫塑・石膏像模刻」 	■「彫塑・ロープを持つ手」 (30 時間) 彫塑用粘土 10 キロ使用 自分の手とロープを構成して制作する 立体的な把握力を鍛え、 デッサン力と空間の構成力を強化する	●	●	●
2	8 ～ 9	■「石膏デッサン」  	■「石膏デッサン」 (31 時間) 木炭紙大画用紙に鉛筆 または木炭紙に木炭 ブルータス・マルス・ヘルメス・ガッタメ ラータ ※秋期実技講習会の事前課題が含まれる	●	●	●
2	9 ～ 10	■第 3 回考査デッサン 	■「第 3 回考査・デッサンコンクール」 (2 時間) A 3 画用紙 物を持つ手のデッサン 全学年で共通の課題で実施	●	●	●
2	11	■「日本美術史」  	■日本美術史(6時間) 日本文教出版社教科書を使用 修学旅行を前に古美術の知識と浮世絵や日本画等の日本伝統の美術文化を含め日本美術史を学ぶことで、愛国心を養う。芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、日本の美術文化の成り立ちとともに、これからの日本を芸術を通して豊かなものとしていく姿勢を持つことは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で基盤となる。	●	●	●
		■「第4回考査 日本美術史筆記試験」 	■「第 4 回考査 日本美術史筆記試験」 (1 時間) 日本美術史の理解度を確認するテスト 日本文教出版の教科書から出題	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	12	■「人物デッサン」  	■「人物デッサン」 (16時間) 木炭紙大画用紙に鉛筆 モデル2名 座りポーズ、服装はTシャツと短パン	●	●	●
3	1	■「西洋美術史」  	■「西洋美術史」 (10時間) 原始・古代オリエント・ギリシア・ローマ・ 中世・ルネサンス・ バロック・ロココ・ 近代・現代における絵画、彫刻、建築、工芸の歴史 日本文教出版の教科書を使用 創造性を養い、多様な価値観を探究し、芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、より良い社会を創り出す態度を養い、豊かな情操を培うことは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で基盤となる。	●	●	●
3	2	■「第5回考査 西洋美術史」 	■「第5回考査 西洋美術史筆記試験」 (1時間) 西洋美術史の理解度を確認するテスト	●	●	●